

熊本県の特別支援教育の現状

熊本県特別支援教育研究会
会長 鶴田 由美
(熊本市立あおば支援学校 校長)

1 特別支援学校等の設置状況（令和5年5月1日現在）

(1) 特別支援学校（知的障がい教育校）の概要

特別支援学校	小学部	中学部	高等部	計
設置校	12	12	16	17
学級数	124	82	154	360
人数	526	369	1034	1929

※令和4年度より58人増

(2) 特別支援学級等の概要

特別支援学級

種別	小学校		中学校		計	
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
知的	408	2104	194	948	602	3052
肢体不自由	73	100	39	54	112	154
病弱	48	75	21	28	69	103
弱視	5	6	7	7	12	13
難聴	23	33	19	25	42	58
自閉症・情緒障がい	539	3083	245	1403	784	4486

※令和4年度より443人増

2 特別支援教育に関する施策（熊本県教育委員会特別支援教育の方向より）

基本方針
共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を目指して

- 1 子供の可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加に向けた指導・支援の充実
- 2 関係機関との連携強化による切れ目ない支援の充実
- 3 教職員の特別支援教育に係る資質と専門性の向上

3 研究会の活動状況

熊本県特別支援教育研究会は、小中学校の特別支援学級や通級指導教室の会員が所属する12の支部と、17校の知的障害特別支援学校で組織されている。会員数は、小中学校の特別支援学級の増加と、知的障害特別支援学校の新設に伴い増加し、2800人を超えている。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種会議、研修会などを集合の形で行うことができなかった。令和3年度より本研究会のHPを刷新し、組織や事業の在り方について検討・改善を行うなどの工夫を行った。会議や研修などオンラインを利用することで、運営面での負担軽減を図ることができた。

令和3年度の九特連熊本大会より、夏季研修会をオンラインで開催している。新しい形での研修会を実現することで、これからの本研究会の充実・発展を図りたい。

<過去3年間の活動状況等>

・令和2年度 県特研夏季研修会 → 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

- ・令和3年度 九特連熊本大会(令和3年8月5日～6日) ※オンライン開催
大会主題「10年後を見据えた特別支援教育の推進」
～新しい時代に求められる教育とは～
- ・令和4年度 県特研夏季研修会 オンラインを使った研修会に移行
分科会改変(9分科会→7分科会)、HP公開による研修会

<令和5年度熊本県特別支援教育研究会事業計画>

月	全体的内容
4	・組織編制 各支部事務局会
5	・評議員会 ・事務局部長会
6	・事務局会 ・合同委員会 ・総会(HPによる書面総会)
7	
8	・県特研夏季研準備(分科会動画撮影等)
9	
10	・県特研夏季研修会(HPによる開催)・部長会
11	
12	・部長会
1	
2	・事務局会・合同委員会
3	・評議員会 ・「あゆみ」第63号HP掲載

(夏季研修会に向けた主な流れ)

7月 レポート掲載および質問募集

8月 動画撮影、編集

10月 HPで公開

4 課題

近年、本県においても特別支援教育を受ける児童生徒の数が年々増加している中、経験年数が3年未満の先生方の割合も高くなっている。また特別支援学級や通級指導教室を担当する先生方の数が不足しているという事実もある。「学びたい」という気持ちがあっても、校内のことや自分のクラスのことと精一杯で、時間的余裕が不足しているのが現状である。

本県では昨年度から、新型コロナウイルス感染症の影響からオンラインで実施した九特連熊本大会のスキルを活かし、ホームページを活用した夏季研修会を行っている。分科会ごとに撮影した動画を都合のよい時間に、関心のある分科会をいくつでも視聴できるという利点がある。ただ、直接顔を合わせての学びあう機会が減ってしまったことから、「集合での研修を」という声も挙がっている。「負担軽減」と「研修機会の確保」のバランスをどうとっていくのが今後の大きな課題である。今後はオンライン等の効果的な活用を図りながら、効率的かつ充実した会の運営を進めていきたい。